

# 芦安ファンクラブ通信

第19号  
紅葉号

NPO法人  
芦安ファンクラブ  
南アルプス市芦安  
芦倉1589-8  
事務局：(大滝)  
055-288-2531

## 南アルプス市一周年記念 観光キャンペーン夜叉神峠

### ツアーガイド実施

然保護の徹底（不法採取、ごみ等）は出発前の必須条件とした。市観光課職員はオブザーバーとして付き添い、状況把握や全体のサポート役に回った。

先般市役所商工観光課より「南アル

プス市制定一周年記念事業キャンペーン・夜叉神峠ハイキングツアー」のガイド依頼を受けて、当芦安ファンクラブはその設立目的である地域活性化のために快諾し、来訪者の安全を確保し、的確で親切な対応、しかも南アルプスの自然を理解していただき、感動的に思い出残るツアーを提供するため市商工観光課と連携を取りながら、以下のような取り組みをした。



参加者はガイドの熱心な説明に聴き入っていた

められる。

ガイド担当者は午前十時に山岳館に集合して待機し、途中から入る連絡を待つて時間を合わせて夜叉人登山口に待つて時間は午後二時を目標とした。お弁当と交通費は支給されるがガイド業務はボランティアである。雨具、おやつ等の個人装備は各自持参し、雨天の場合は若干遅れるが山岳館で昼食をとるほうがよいとなつた。

標準コースタイムは登り一時間半下りは一時間目標とし、頂上で昼食時間は四十分の基準時間設定した。

ガイド終了後はその都度活動報告書を作成し提出する事を義務付けた。

実施日が迫ると自主的に現地研修会を実施し、参加者に十分満足していただくよう準備した。

ガイド活動は平成十六年十月十八日～平成十六年十一月十二日の間で十七回を数えた。参加者は合計744人になった。延べガイド人数は54名（除く市商工観光課職員）となり、芦安ファンクラブ創設以来の大ガイド事業となつた。

成果と反省を列記し今後の参考にしたい。

① ガイドの存在は参加者に安心感を与えた。

② 夜叉神峠の自然や景観、歴史、文化に深い理解が寄せられた。

③ 参加者とガイドの良好な交流が生まれた。

市観光課は参加人数を掌握してリアルタイムで事務局に連絡し、事務局はガイド業務の人員配置を各自申請した可能日から選定しスケジュール表を作り各自に連絡する。

ガイドの最も大切なことのひとつに時間通りに導くペースメイカー役がある。また病気や落伍者に対する的確かつ迅速に臨機応変の措置をとるが求

④ 参加者の質問が多岐にわたりすべての質問に対応できたとは思えないでの、今後も勉強してゆかなければならぬ。

⑤ 参加者にとって資料が大変役立ち、このツアーの大きな付加価値となつた。

⑥ 歩くことが一生懸命だったので各種の説明が徹底しないことがあつた。

⑦ ハイキングの概念がまちまちであったので、募集の段階での詳細な説明が必要である。（こんなに厳しいとは思わなかつたの声が多数聞かれた）

⑧ 雨天時の対応はほぼ完璧であった。（昼食の場所の確保等）

⑨ 休日の混雑が激しく、このような

ツアーは可能であればウイークディーが望ましい。

⑩ 注意事項が徹底せず、植物保護、ごみ処理等で山小屋管理人と諍いが生れた。

⑪ 市主催の行事なので事前に山小屋等の関係者に協力要請をして、連携を密にしておく必要があつた。

その他として施設整備に対する要望が目立つた。登山口のトイレの絶対数が少なくトイレ待ちの行列ができる、また掃除が行き届いていないので、管理体制を含めた施設整備等の課題が残つた。峠には景観を配慮した降雨対応施設として、山頂に四阿が欲しい。

また頂上の草原に笹がはびこり、来訪者の休憩の場所が確保できないほどに広がっている。南アルプス市を代表する景観を有する場所として、未来に向けて適切な利用の方策を構築する必要

↓  
前頁より  
南アルプス市を訪れた大勢の人々と  
感動を共有し、心暖まる交流が生まれ  
ます」「また来ます」「今度は晴れた日に來  
ます」「春にまた来るよ」の言葉を残し  
て帰つてゆく参加者を見送る我々の心  
は自然と人間が与えてくれた達成感で  
大いに満たされた。

画一化された社会情勢の中で、日常  
生活に潤いや癒しを与えてくれる南ア  
ルプスの自然はかけがえのない貴重な  
財産であり、この尊い自然環境を傷つ  
けることなく未来に残してゆくことが  
今を生きる私たちの重要な責務と感じ  
ている。

芦安ファンクラブ 塩沢 記

を痛感する。以上、今回のツアーガイ  
ドの反省や成果の総括を記してみた。



初々しいガイド振りは参加者から好評だった。



珍しいカウベルの演奏にも観客は大喜び

## 南アルプス 音楽祭開かれる

南アルプス音楽祭は芦安が、南アルプス市商工会、夜叉神観光協会の主催で、十月十六日、十七日、十一月六日、七日の四日間、芦安山岳館エンタランスホールにおいて、夜八時より開催された。芦安の宿泊施設の宿泊者を中心に、延べ五百人を超す多くの方が集まり、盛大な音楽祭になった。

アルプス音楽楽団エーデルワイスカペレの出演で、ヨーデル、カウベル、アルプホルンなど、ヨーロッパアルプス地方の民族音楽の演奏や歌を中心に、映画サウンドオブミュージックでおなじみの曲や日本の童謡など、親しみやすい曲も多く歌われた。また実際に観客もアルプホルンを吹いてみたり、一緒に歌つたり、観客と一緒にした楽しい演奏会になつた。休憩時間には地元の北岳ワインのサービスがあり、お互に交流を深めた。

この音楽祭をきっかけに、より多くの観光客や登山客が南アルプスを訪れる期待したいものである。

芦安ファンクラブ  
大滝 記



南アルプス市地域振興計画策定委員会の中で芦安ファンクラブも一員として、強いブランド造りのための協議会に参加させて頂いている。  
「ブランド」とは? 何だろうか。  
一般的には、高級一流品、持つていてステータスを感じるもの、象徴になるようなもの等。なんとなく「もののイメージが強く、どうしても個別な特産物や特産品から意識が離れない。しかし実際には身の回りのものから、自然環境、ひいては個人にいたるまで「ブランド」に成り得る」という。  
そして、その確かな定義とは、すばり「信頼に答え続け、裏切らないもの」「もの」より人間性の格言に当てはまりそうなこの一言は、一時的な高品質や気まぐれな当たりはずれを戒めている。もちろん打算的な発想は論外になる。よく「山はいいなあ、裏切らないもの」と聞く。確かに山は四季の移り変わりはあれど、その大自然はいつも訪れる者を満足させてくれ、「また来よう」と感じさせてくれる。すなわちここにはブランドが見える。

しかし山は自然ばかりではない、人為的な「道」や「小屋」もあり「人もいる。この部分で期待を裏切つたり、信頼を失つていてはせつかくの山に泥を塗ることになる。かつて、道なき高山上に「ブランド」の価値を見出し、訪れる人々をもてなしの心で案内した先駆者の志を我々は忘れてはならない。「もてなし」が心のブランドになるような環境を!

編集係

## 南アルプス市を地域 ブランドに!

## 南アルプス秋の山行記

南アルプス林道が通行止めになる前にと、秋の早川尾根山行を計画し、十月二十八日に市営駐車場から広河原行きのバスに乗った。今年からマイカー規制が導入され、色々問題も出たが、南アルプスの将来を考えるとやむをえない選択だと思う。夜叉神峠駐車場で時間調整し、夜叉神トンネルを抜け白鳳渓谷に入ると、新雪の白根三山が紅葉に映え、乗客の中から感動の声があがる。この時期は紅葉見物の観光客の方が多い。今後、登山客ばかりでなく、観光客も楽しめるよう、観光資源や施設の整備を進めていく必要があると思う。

広河原に着くと北岳は新雪で白く輝き、紅葉の中に浮かび上がつて見えた。その北岳で、前日三人の方が遭難したという話を聞いて、改めて山の怖さを感じた。この日広河原では白根御池小屋の新築工事のヘリコプターが何度も飛び交っていた。来年には完成する予定とのことで、外観・設備はもとより登山客のおもてなしの面でも南アルプスを代表する山小屋にしてほしいものである。

そんな期待を胸に午前九時発の市営バスに乗り換え北沢峠に向かった。車窓からは、林道沿いの紅葉が眩しく、特に霧氷に輝くアサヨ峰、花崗岩の白い甲斐駒ガ岳が青空に映え印象的だった。北沢峠着午前九時二十五分で、帰りは午後三時十分のバスが最終なので、早川尾根の栗沢山やアサヨ峰登山は、日帰りにはきついコースだ。もう少しバスの時間にゆとりがあると、このコースの登山者も、もつと増えると思う。

栗沢山は、芦安ファンクラブの第一回、三回、五回と登山教室のコースになり、おなじみの山だが、一般的にはあまり知られていない。北沢長衛小屋の前から橋を渡つて、仙水峠へ向かう道と別れ、シラビソの原生林の中を登る。静寂そのものの森に包まれるよう歩くのは、気持ちのいいものである。市の観光キャンペーンの夜叉神峠ガイドに向け、木の勉強をしたおかげで、森の豊かさも前にも増して感じられるようになつたようだ。やがて、森林限界を抜け、ハイ松と岩におおわれた尾根に出ると、急に視界がひらけ、南アルプス北部の山々が顔を出してくる。山頂まであとひと登りだ。

山頂からの眺望は素晴らしい、新雪に輝く仙丈ガ岳、北岳、アサヨ峰が大きく聳え、振り返ると眼前に迫る甲斐駒ガ岳が圧倒的だ。今日は快晴で、遠く純白の北アルプスの峰々がすらりと並ぶ。北沢峠から二時間ほどで登れるので、もつと多くの人にとってほしい隠れた名山である。前にはなかつた栗沢山山頂の標識がその存在を強くアピールしている。

アサヨ峰へは、栗沢山から一時間ほどだが、展望の良い爽快な稜線歩きが楽しめる。山頂からの眺望は、さらに素晴らしく、広河原からせりあがる北岳と鳳凰三山が大きく迫る。南アルプス林道の先には、高谷山、かんば平、櫛形山が遠く霞み、そのまた先に、



迫力のある甲斐駒に圧倒される

ひとりわ高く富士山が聳える。三六〇度の展望を独り占めにし、時の経つのを忘れる。時間があれば早川尾根を辿り広河原に降りたいところだが、今回はやむなく同じルートを引き返した。  
南アルプスの豊かさと美しさを改めて感じ、その豊かさが失なわれないように、少しでも力を 尽くそうと、気持ちを新たにした山行となつた。

## 芦安ファンクラブ大滝記



北岳はもう冬景色



# 北岳が一メートル 高くなつた！

一八二一（文政四）伊能忠敬は先進諸国が驚くほど正確な『大日本沿海輿地全図』を完成させた。しかしながら、中部山岳地帯を踏査するには非常に厳しく十分な測量ができずに空白部が残っていた、明治政府は参謀本部陸地測量部を設けて、この地図の空白部を埋め、日本の国土の状況を正確に把握するためにより精度の高い測量を全国に渡つて精力的な作業を展開した。

一九〇四（明治三七）六月、参謀本部陸地測量部員吉村武雄は二年前にイギリスの宣教師W・ウェストンを案内した芦安の清水長吉と共に残雪豊かな北岳山頂に立つていた。

この年の春、上官より未開の南アルプスの測量を命じられて以来、少ない資料の中から登山ルートを探り、食料を始めとする物資の調達、人夫や案内人の手配等、昼夜気の遠くなるような作業に追われ、休むまもなく開通したばかりの中央線に乗り芦安に入つた。ここでは村長の名取運一が現場での作業に必要なあらゆる準備を整えて暖かく迎えてくれた。測量機器、六〇キロもある花崗岩の三角点の標柱、食料、衣類等膨大な荷物を十数人の人手によつて、夜叉神峠を越え鮎差、荒川谷を遡行して北岳の泊まり場に三日をかけて到着した。この間、現地に詳しい清水長吉の働きはめざましく、彼なくしては、今日頂上に立つことができなかつたであろうと思い、雪焼けした精悍な横顔に感謝をおくりながら選点の作

業を終えた。それから、梅雨の悪天候や、強風、粗末な食料等の悪条件の中、大変な苦労の後、造標を終え、九月十一日北岳の標高が三一九二・四メートルと観測され、富士山に次ぐ日本第二の高峰であることが判明した。



今も成長？している北岳山頂

十月三十日（土）森林インストラクターの資格を持つ橋田博氏に講師をお願いし、樹木の観察会を夜叉神峠で行ないました。参加者は十二名、参加者の中には前回の観察会に参加してくれた方、県外から参加してくださる方もいました。

観察会当日の天気は予報では昼前には雨が降り出すとのことでした。講師と相談した結果せっかくここまで来ていただいたのだからと夜叉神峠まで行くことになりました。

登山口到着まもなく、ぽつぽつと雨が降り出してしまいました。雨支度を整えてそれぞれして出発。観察会は、

夜叉神峠までに延べ四十七箇所ある樹名版を参考にしながら、その樹木の特徴や葉などから見分ける方法などを勉強しながら歩きました。参加者は雨の中講師の話を良く聞き、判らないことは積極的に質問していました。

雨も降つたり止んだりを繰り返しながら何とか土砂降りにならないで夜叉神峠へ着きました。残念ながら白峰三山も見えず、降りも強くなってきたので昼食も食べずに下山を開始しました。下りは速いペースで降りてきましたが、健脚の方が多く遅れる人を出さずに下山できました。

山岳館到着後に遅めの昼食をとり、体を温め後半の勉強会を実施。登りながら勉強したことと復習し、事前に作っておいた標本を使いながら勉強したことと復習しました。

今回の観察会は残念ながら雨になつ

## 秋の自然観察会実施

てしましましたが、芦安山岳館では今後もこのような企画を行なっていく予定です。皆様の参加をお待ちしております。



雨の中、熱心な観察を続ける参加者の皆さん

森林インストラクターとは？ 森林インストラクターは（社）全国森林レクリエーション協会が認定した「森林作りと林業、野外での活動、教育の方法、安全対策に対する知識を活かし、森を訪れる人々が自然を深く知ることができるようアドバイスをしてくれる」とても強い味方です。

山梨県下では平成十五年年四月一日現在十九名のインストラクターが活躍中です。

南アルプス芦安山岳館 深沢記